

★ 平和憲法で明るい日本の未来

―「あげたいな九条にノーベル平和賞」―

◆右の平和川柳は、ある小学生が詠んだものです。戦後六十二年の間、日本に平和をプレゼントしてくれた憲法九条にノーベル平和賞をあげたいなあという気持ちがよくでていますね。

★ 分かち合って生きる―石橋湛山

◆一九三〇年代、日本がアジアの国々を侵略し領土を拡大していたとき、これに異を唱えた人がいました。後に首相となった石橋湛山です。

◆奪い取った外国の領土を返し、こんな不道徳な戦争を止めなさい、狭い日本でもみんなが分かち合って暮らせば生きてゆけると言ったのです。

★ 戦争放棄―幣原喜重郎

しではらきじゆうろう

◆戦後、新憲法を作るとき、時の首相幣原喜重郎はマツカーサーに「無軍備・戦争放棄」を進言しました。電車の中から東京の焼け野原を見て、二度とこのような光景を繰り返さないためにはこれしかないと思っただのです。

◆幣原のこの提案はマツカーサーを感動させ回顧録にも残っています。

★ 日本の青空―鈴木安蔵

すずきやすぞう

◆新しい憲法を作るにあたって、民間から多くの憲法草案が出されました。その中に憲法学者・鈴木安蔵が中心になって作った憲法草案がGHQの目にとまり、そのすばらしい内容が評価され多くが採用されました。

◆後に静岡大学の教授になった鈴木安蔵は、浜松市憲法を守る会の第一回の平和講演会講師となりました。映画「日本の青空」のモデルとなった人です。

★ そして平和憲法が生まれた

◆このように戦中戦後を通じて、日本には平和憲法誕生の礎いしずえとなった人は多くいました。平和憲法は決してアメリカの押しつけではなかったのです。

◆そして生まれた平和憲法は、戦後六二年間日本に平和をもたらし、この憲法はいまや日本の宝から世界の宝になっています。

―歩き続けて四十年十一月―

二〇〇八年一月十三日(日) 第四九一回憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市紺屋町三〇―一五

★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合

○ご通行中の皆さん、ドライバーの皆さん、こんにちちは！
こちらは歩き続けて四十年、第四百九一回の憲法を守る平和行進です。

○新しい年が明けました。皆さんは日本の明るい未来は何によってもたらされると思
いますか？ それは、何と言っても、平和あつての明るい未来ではないでしょうか？

○一九三〇年代、日本は領土を拡大しないと、生きてゆけないと中国や朝鮮・台湾な
どを侵略し領土を拡大してゆきました。

○このとき、後に総理大臣となる石橋湛山という人は、皆が分かち合つて慎ましく暮
らせばこの狭い日本でも生きてゆける、この戦争は止めるべきだと言いました。

○そして、敗戦。戦後日本は六二年間、この狭い国土で平和に暮らしてこんにちまで
きました。それは戦争をしなかつたからです。

○終戦直後、東京の焼け野原を見て、二度とこのような光景を繰り返してはならない、
それには、無軍備・戦争放棄しかないと思つた総理大臣がいました。幣原喜重郎で
す。

○幣原総理は、GHQのマッカーサーにこの事を進言し、マッカーサーを感激させま
した。それが戦争放棄の憲法九条につながつたにちがいありません。

○戦後、新憲法を作るとき、民間から多くの憲法草案が出されました。その中の鈴木
安蔵が中心になつて作られた憲法草案がGHQの目にとまりました。

○そのすばらしい内容が評価され、多くが採用されました。現在の憲法はアメリカの
一方的な押しつけではなかつたのです。

○鈴木安蔵は後に静岡大学の教授となり、「浜松市憲法を守る会」の第一回平和後援会
の講師となりました。映画「日本の青空」のモデルとなつた方です。

○戦中から戦後、日本には平和憲法誕生の礎となつた方が多くいます。現在の平和憲
法は決してアメリカの一方的な押しつけ憲法ではなかつたのです。

○こうして生まれた平和憲法は、戦後日本にこんにちまで六二年間、平和をもたらし、
この憲法はいまや日本の宝から世界の宝になっています。

○皆さん、どうかこの憲法を守り抜き、日本の明るい未来を実現しましょう。

○ご通行中の皆さん、ドライバーの皆さん、こんにちちは！

○こちらは歩き続けて四十年、浜松市憲法を守る会の第四百九一回目の平和行進です。

今日は、平和憲法で日本の明るい未来を実現しましょうと訴えて行進しています。